

AFICAT ニュースレター(日本第 3 号)

2022 年 7 月 29 日発行

5 月中旬から 6 月下旬にかけてナイジェリアで現地活動を実施し、6 月下旬からガーナでも活動を開始しました。今回はナイジェリアでの本邦企業の活動、JICA 筑波で海外から来た研修員向けに実施された本邦製品のデモの様子、ガーナでの活動について紹介します。

本田技研工業(株)さまによる現地活動



Nasarawa 州農業省の圃場で耕うん機の操作を体験する参加者と使い方を説明する Honda の担当者

本田技研工業(株)さま(以下 Honda)は、前回紹介したタンザニアに続き、ナイジェリアでも製品のデモ・セミナーを実施しました。初回のデモ・セミナーは 6/1~2 に、ナイジェリア中部にある Nasarawa 州農業省の圃場で実施しました。連邦農業農村開発省から 5 名、Nasarawa 州農業省から 10 名、5 つの農家グループから 15 名、計 30 名が参加しました。

初日は Honda の担当者が耕うん機と背負い式動力噴霧器を圃場で実演し、参加者も操作体験をしました。デモの中心となった耕うん機については、「操作に慣れるには少し時間がかかる」との意見もありましたが、「小型だがパワーは十分で、小規模農家の作業面積に合っている」、「部品の点数が少なく、メンテナンスが容易」といった好意的な意見も確認でき、農家の懸念であるスペアパーツの入手についても、近隣の販売網でサポートができることが説明されました。当日の様子は現地の TV 局 (Nasarawa Broadcasting Service) や全国のラジオ局 (Radio Nigeria)、JETRO ラゴスによるビジネス短信や JICA ナイジェリア事務所の Facebook でも取り上げられました。

2 日目は、前日と同じ Honda 製品の説明、メンテナンスの実演を行い、Honda と Nasarawa 州農業省との連携による販売促進のビジネスモデルについて協議し、今後のアクションを合意しました。



耕うん機のメンテナンス方法を説明する Honda の担当者と真剣に聞き入る参加者

また、6/21~22 には Honda と Nasarawa 州が主体となり、農家の圃場を使用して 2 回目のデモを行いました。Honda からは農家への製品訴求に加え、Nasarawa 州農業省の普及員に対し製品のメンテナンス手法の講義が行われました。その後、ビジネスモデル構築に向けた意見交換や具体的な連携内容についての協議が行われました。Honda と Nasarawa 州農業省は引き続き協議の場を設け合意形成につなげていく予定です。

[Nasarawa Broadcasting Service で放映された映像](#)(細かいのはつマネジメント・コンサルティングのウェブサイトへ遷移します)

[JETRO ラゴス ビジネス短信\(2022/6/14 付\)](#)

[JICA ナイジェリア事務所の facebook 投稿\(2022/6/3 付\)](#)

【ナイジェリア現地情報#1】日本の約 2.4 倍の国土で、その 75%が農用地として利用可能と言われています。農業セクターは GDP の 22%、雇用の 45%を占める基幹産業です。コメ生産者の大半を占める小規模農家の機械化は遅れており、現場の視察、聞き取りによると、耕うん地整地作業から収穫・乾燥まで、一部賃耕サービスに頼る以外は手作業で行われます。一方、適期における労働者の確保も難しくなっており、機械化のニーズが高まっています。(出所:JICA「[アフリカ地域先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査](#)」)



「株」ケツト科学研究所さまによる現地活動

「株」ケツト科学研究所さま(以下 Kett)は実機を用いたオンラインデモ・セミナーを今年の 10 月に予定しており、それに向けたオンライン形式の講義と意見交換会を 6/21 に開催しました。当日の参加者は、ナイジェリアの連邦農業農村開発省と標準化機構から 8 名、精米業者と精米業者協会からそれぞれ 2 名の計 12 名で、全員が 10 月のデモ・セミナーにも参加予定です。

当日は実機を使用せず、資料に基づいて穀物水分計、白度計、テスト用粉摺り機などの製品を紹介しました。特に穀物水分計の測定原理・仕組み、サンプル収集と水分計の品質管理方法について説明した上で、ナイジェリアの実情に沿った Kett 製品の利用方法の意見交換をしました。紹介された製品のなかには、参加者がこれまでに見たことがない最新の機材もあり、関心を惹いていました。ナイジェリアで一般的に流通しているパーポイル(粉が付いたまま蒸された)加工米を高い精度で測定できる水分計の存在も充分に知られていなかったようです。



当日投影された Kett 製品の説明資料。穀物水分計や白度計などが紹介されました

JICA 筑波・農業共創ハブで美善さまを取材

JICA 筑波・農業共創ハブは、新しい農業技術の国際協力への導入や、途上国向けの技術の共創、農業人材の育成を目的として 2020 年度から開始された JICA の取り組みです。農業共創ハブでは、JICA 筑波の施設(圃場・ハウス・実践室など)や海外からの研修員(行政官や普及員など)を活用して、「農業技術にかかるビジネスマッチング」、「新規技術の研修への導入と外国人材受け入れ支援」、「開発協力人材の育成」の 3 つの柱を軸に活動を行っています。

6/9、AFICAT 日本人専門家チームは、JICA 筑波で実施された「株」美善さま(以下美善)の水田用株間除草機

「あめんぼ号」の実演を取材しました。これも農業共創ハブの活動の 1 つで、当日はアフリカを中心とする国・地域から来日している 20 名の研修員が参加しました。

途上国では手押し式除草機が一般的に使われていますが、ほとんどが畝間除草用です。「あめんぼ号」は畝間と株間の除草を同時にできる機械ですが、途上国では畝間が日本より狭い場合もあり、すぐに現地でも利用できない可能性もあります。海外に機械を持ち込み、現地でも動かしてみることができなくても、農業共創ハブでは海外からの研修員に実際に機械を使ってもらい、彼らの視点から日本製農機の現地適応性や使用感などについての意見を直接聞くことができます。

今回の実演の様子は、以下の JICA ウェブサイトで詳しく紹介されていますので、ぜひご覧ください。参加した研修員のコメント、作業動画なども掲載されています。

[JICA 筑波・農業共創ハブ最新ニュース\(2022/6/9 付\)](#)



JICA 筑波の圃場であめんぼ号の操作を体験しているアフリカ・カメルーン国からの研修員。体験後には大勢の研修員から価格、作業速度、燃費、推奨される土壌等に関して相次いで質問が寄せられました

「ガナ」で現地活動がスタート!

6 月下旬から、「ガナ」で活動がスタートしました。まずは首都 Accra で「ガナ」食糧農業省穀物サービス局(DCS)や同農業機械化サービス局(AESD)、ガナ灌漑開発公社(GIDA)といった関係機関と AFICAT の実施体制を協議し、日本人専門家チームとの今後の活動内容を確認しました。



クワメ・エンクルマ大学での国際会議



クワメ・エンクルマ大学のデモ圃場を視察。広大な天水畑作地が広がっています。左がエマニュエル准教授

首都 Accra での関係機関との協議後、日本人専門家チームは中部 Ashanti 州に移動し、州農業局や Bekwai 県農業局、クワメ・エンクルマ科学技術大学 (KNUST)などを訪問しました。

KNUSTは西アフリカ地域で最高峰の大学に位置づけられており、農業機械に関する研究も行われています。面談した教授陣からは AFICAT の研究開発(R&D)機能である「イノベーションラボ」への関心が寄せられました。例えば、ご自身でキャッサバ収穫機やピーナツツシエラーなどを開発されているエマニュエル准教授も日本企業との R&D に関心をお持ちでした。他にも KNUST の教授の中には、JICA の農機研修に参加した方や日本の大学を卒業された方もおり、親日家が多くいます。

KNUST では今年 10/9~14 に全アフリカ農業機械協会 (Pan African Society for Agricultural Engineering)によるアフリカ農機国際カンファレンス



(AfroAgEng International Conference 2022)が開催されます。AFICAT の対象国だけでなくアフリカ全土から参加者が集まる国際会議です。ご関心のある方は次のリンク先からオンライン参加登録をされてみてはいかがでしょうか。

[クワメ・エンクルマ大学ウェブサイト](#)

[アフロ農機国際カンファレンス参加登録ページ](#)

編集後記

今年 3 月にタンザニアで AFICAT の活動を開始してから 3 か月が経ちました。その後も複数の国へ活動は順調に広がってきています。これも日本製品への期待があるからこそだと、現地での協議を重ねる中で実感する毎日です。引き続き本邦企業の皆様とアフリカの農業機械化の橋渡しとなれるように、チーム一同取り組んで参りたいと思います。

また、新たに AFICAT をご活用いただける本邦企業の方を、随時募集しております。AFICAT にご関心がある方は、お気軽に以下の連絡先にお問い合わせください。

編集・問合せ
(株)かいはつマネジメント・コンサルティング
弓削田・徳岡・魚住
Tel: 03-5791-5083 Mail: aficat.team@kmcinc.co.jp
AFICAT HP:(現在準備中です)

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※[AFICAT のご活用に関するお問い合わせ](#)も、上記の宛先までご連絡下さい。